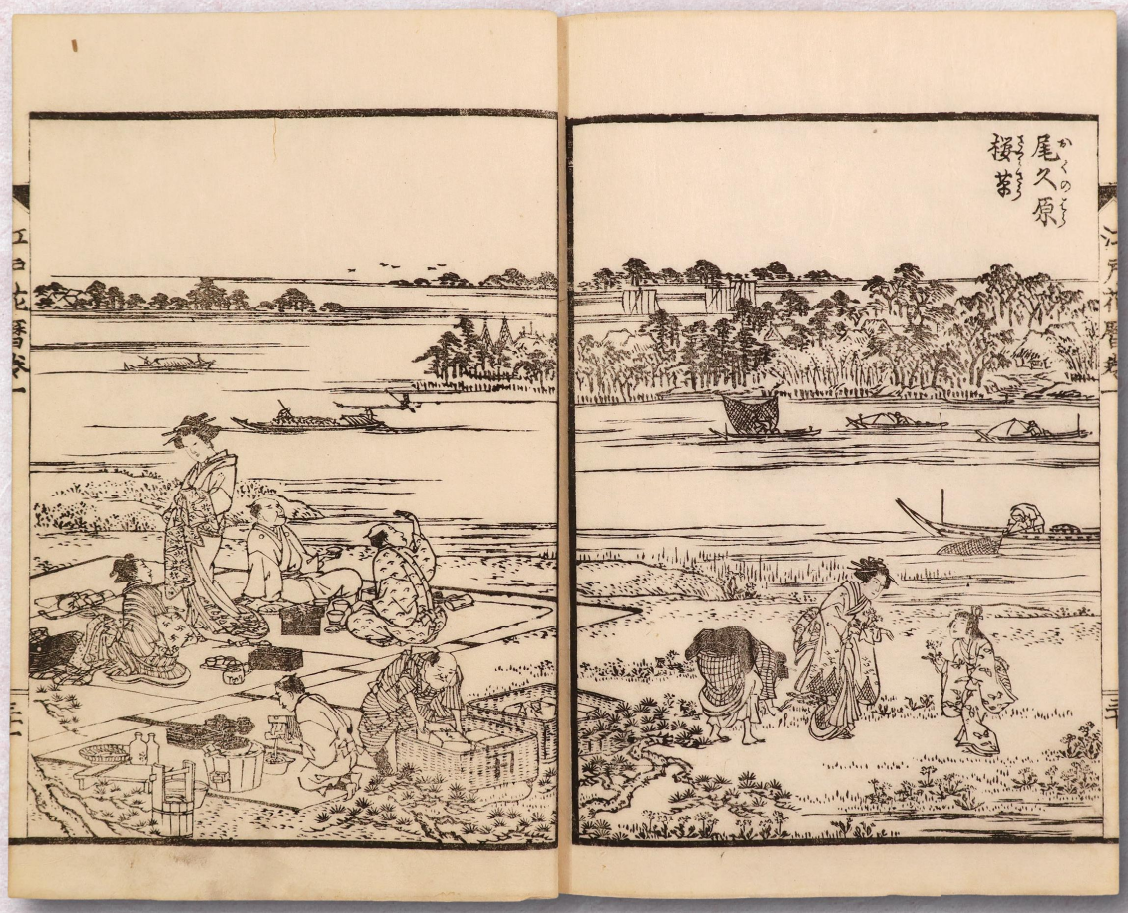
# 江戸時代の行楽




『江戸名所花暦 春』　請求番号 :CI－207

四季折々の行楽地を紹介した本書では、王子と千住の間にあった尾久の原での桜草の花見が描かれています。町人たちが、敷物の上に折詰と酒を用意して、川漁の景色を観賞しており、傍らでは花摘みをしています。さながら現代のピクニックようで、花見を楽しむ様子がいきいきと伝わってきます。

名所や景勝地への行楽が、レクリエーションとして、江戸の庶民に浸透していたことが分かる挿絵です。